

## I 令和元年度の運営総括及び来期の課題

### 1. 乳幼児事業

#### (1) 総括

##### ①ちびっこ広場

毎週水曜日の午前中に『ちびっこ広場』を行っています。内容は絵本読み聞かせ、手遊び、親子体操、工作、誕生会等です。『ちびっこ広場』への参加を目的に来館する親子が多く、親子で一緒に手遊びやふれあい遊びをしたりする楽しさを共有しています。毎月季節に合わせた「月の歌」を参加者皆で歌ったり広場の最後におなじみの体操をしたり、音楽を豊富に取り入れたリトミックを中心とした広場を展開してきました。その結果、幼児が、音楽が聴こえるとリズムに合わせて踊ったり、日頃遊びに来る際に「月の歌」を親子で歌ったりする様子が度々見られるようになりました。

昨年まで頻りに遊びに来ていた幼児の半数が保育園や幼稚園に入園し、今年度は特に前半期、参加者が少なかった印象でしたが、後半期になるとおなじみの顔ぶれが安定的に参加してくれるようになっていきました。今年度はおたよりの配布場所を拡大したこともあり、味方地域の方だけでなく月潟地域・根岸地域・白根地域、区外・市外・県外からの来館もありました。利用者からの紹介や検診、育児相談、また最近ではHPや母親同士のSNSなどから児童館を知り来館される方が多く、味方児童館が周知されてきていると感じました。

今年度は味方地域の有志ボランティアの方々にご協力頂き、『ちびっこ運動会』、『ちびっこひなまつり会』などの季節行事を行うことができました。『ちびっこ運動会』、『ちびっこひなまつり会』は昼食が食べられるということもあり、とても人気のあるイベントです。食事の提供は、地域の食生活改善推進委員の方がボランティアで参加してくださっています。食物アレルギーのお子さんや、月齢の低いお子さんにも細やかな配慮をして下さり、安心して楽しく食事をすることができています。

祖父母が孫を連れて来館することも多く、祖母同士、祖母と母親などの異世代の交流も度々見られます。こうして“地域一体となって子育てをする”という環境ができ上がってきています。今後も利用者のニーズをしっかりと捉え、より楽しい、居心地の良い児童館を目指して管理運営を行っていききたいと思います。

##### ②つくって遊ぼう

毎月第2週目の水曜日、木曜日、金曜日に親子で一緒に工作を楽しむ行事として『つくって遊ぼう』を行いました。季節に合わせた工作や、月齢の低いお子さんでも遊べる手作りおもちゃなど、親子で楽しんで工作できるように工夫をしてきました。この行事をきっかけに、工作が好きになっていく子どももいるようで、『ちびっこ広場』に参加していた幼児が成長し、児童館の工作コーナーで廃材を使い楽しそうに工作をしている姿もよく見られます。

### ③ほっとティータイム

毎月第4週水曜日の午前中、『ちびっこ広場』の後に保護者向け、乳幼児向けの飲み物を提供する『ほっとティータイム』を行っています。飲み物があることで保護者同士が交流しやすく、保護者の友だちづくりの場になっています。日頃育児に追われている保護者の方が「ほっ」と、ひと息ついて、育児ストレスを発散できる場所になればと企画したイベントですが、当初の思いの通り機能しているように感じます。

### ④移動児童館

昨年度に引き続き、味方地域の2つの保育園『あじほ保育園』、『にししろね保育園』での移動児童館を実施しました。今年度はリトミックを中心とした内容で、音楽に合わせた集団での体遊びやじゃんけん遊び、絵本の読み聞かせ、素語りなどを行いました。子ども達はとても楽しかったようで、その後児童館に来ると、移動児童館に伺ったスタッフとの再会を喜ぶ姿が見られました。保育園の先生方からも、「できることなら年1回と言わず年2回でも来てもらいたいくらい」とのお言葉を頂きました。来年度は内容をカブラに変えて訪問する予定です。

### ⑤ママのためのリフレッシュタイム

平成24年度から、子育てを頑張っている母親（祖母）にリフレッシュしてほしいと思い始めた事業です。年に4回、保護者の方が楽しめてリフレッシュできるものを企画しました。今年度も4月、10月には『ママのためのリフレッシュタイム』スタート時から継続して行っている『足つぼマッサージ』を開催しました。アンケートなどでは「マッサージをしてもらいたい」という要望がとても多いため、『足つぼマッサージ』は毎回すぐに予約が埋まってしまう大人気のイベントとなっています。

またその他には、『カイロプラクティック』や『お花のいろあそび』を行いました。『カイロプラクティック』は初めての試みで、講師をお呼びして限定5組の親子（施術を受けるのは母親）に体験してもらいました。『足つぼマッサージ』同様、日々の子育てでお疲れの母親達にとっても喜ばれました。『お花のいろあそび』では、生け花師範でもある児童館スタッフが特技を活かし、“生け花体験教室”を行いました。なかなか日頃お花に触れ合う機会もないとのことで、「綺麗なものにふれて癒されました」との声も聞かれ、リフレッシュしている様子が伝わってきました。今後も保護者のニーズを汲み取りながら、心と体をリフレッシュし毎日の子育てを楽しめるような企画をしていきたいと考えています。

### ⑥しゃべろっと

南区健康福祉課主催の子育て支援研修会に参加し、子育て支援リーダーとなった『子育てオーエンジャー☆みなみ』が中心となり、0. 1. 2歳の子どもの母親対象に支援を行っています。味方児童館を活動場所とし、育児中のちょっとしたストレスや愚痴を気軽に話したり育児の悩みを相談し合うのが目的です。話しやすい環境づくりのためにハンドトリートメントやお茶、お菓子も用意し、予約なしで気軽に遊びに来られる

ようにしています。

9月のしゃべろっとでは工作に特化した内容で、講師の方をお招きし、母親に向けた『ハーバリウムづくり』を行いました。ハーバリウムは若い世代から今高い人気を集めている工作なので、工作好きな母親達が集まり、とても楽しそうに参加していたのが印象的でした。色とりどりのお花を前に、「どれにしようかな」と童心に返ったようなわくわくした母親達の表情を見ることができました。7月には『～summer コンサート～』として、講師の方々による歌とピアノの演奏を楽しんで頂きました。選曲には、子ども達も耳馴染みのある歌、母親世代にとっても懐かしい歌などを盛り込んでもらいました。親子で一緒に楽しむことができるこのコンサートは、アンケートの結果もとても好評でした。

『子育てオーエンジャー☆みなみ』のメンバーは、地域の主任児童委員の方が担っています。まだまだ味方児童館の存在を知らない方や、知っていてもなかなか児童館へ一歩踏み出すことが出来ない方がいらっしやるようです。そこで、地域の方と協力し、保護者が孤立しない、孤立させないためのケアを今後も続けていきたいと思えます。

## ⑦父子親子の利用数の増加

近年では、母親だけではなく、父親が乳幼児を連れて来館することが増えてきています。特に土日の利用が多く、家族で来館することもあれば、父親だけで子どもを連れてくることもあります。いわゆる“イクメン”と言われる子煩悩な父親が増えてきたことでもあります。アットホームで親しみやすい児童館の雰囲気、父親一人でも来館しやすい要因となっていると感じています。また、家庭の中で、“父親一人でも安心して行って来られる遊び場”としての認識が広がってきているのだと思います。今後も、どなたでも入りやすい温かな雰囲気を維持していけるよう努めていきます。

## (2) 来期の課題

### ①乳幼児親子が安心して遊びに来られる環境の維持

令和元年度後半から世界的に大流行している新型コロナウイルスの影響により、現在子ども達、親子の安心安全な遊び場が失われつつあります。3月の1か月間、休館になったことを受け、スタッフ一同が子ども達の声が響く児童館の大切さや役割、また、子ども達が普通に、安心して遊べる環境を守らなくてはならないと改めて痛感しました。そのため、館内の設備・玩具の消毒、換気の徹底や3密を避けること、来館者の体調を気に掛けることなど、スタッフ一人一人が意識を持って環境整備に配慮していくことを第一の課題とします。

### ②相談業務の充実

これは今年度も掲げてきた課題ですが、次年度も継続して課題にしていきたいテーマだと思っています。乳幼児親子と日々関わっていると、様々な場面で育児の不安や悩み、

ストレスを抱える母親が多くいることを実感させられます。少しでもそれらの不安や悩みを解消するお手伝いができるよう、職員一人一人がさらなるスキルアップを目指し、傾聴の技術を磨いていきたいです。また、乳幼児親子との信頼関係が築けるよう、日常的な場面での乳幼児親子とのコミュニケーションを特に大切にしていきます。保護者の心に寄り添い、気軽に話ができる居心地の良い児童館を目指していきます。

## 2. 小学生事業

### (1) 総括

今年度も前年に引き続き、小学生の利用が増加した年であったと感じています。今年度も、例年では来館が少なくなりがちな新1年生の来館多かった印象でした。幼児期に保護者と児童館に何度か来館したことがある子ども達が多く、既に慣れていたという理由があると思います。また今年度は低学年だけでなく、例年来館が少なくなりちな4、5、6年生の来館も割と多かったという印象でした。どの学年も平均的に、来られる時に来館してくれていたのも、異学年同士仲良く遊ぶ姿が見られました。

味方児童館に遊びに来るこども達は、異学年・異学校の子ども達同士でも仲良く遊べるという点が非常に素晴らしいと思います。当たり前のように声をかけ合い、一緒にドッジボールやサッカーをして遊ぶ姿が毎日見られます。味方という地域柄と、小さな児童館ならではの特長と感じ、微笑ましく見守っています。

また、近年の傾向として、異学年・異学校の子ども達同士だけでなく、乳幼児親子・中高生との交流も盛んになってきていることが挙げられます。小学生達が自ら乳幼児の遊び相手を申し出て、乳幼児の母親達も快くそれを受け入れ、他愛ないおしゃべりしながら楽しそうに交流する様子が頻繁に見られます。年上である中高生との関わり方としては、甘えて可愛がってもらったり、遊び相手になってもらったりしているようです。自分達が受けた優しさを、自分達よりも下の年齢の子ども達に返しているようで、見ていてとても心が温まるのと同時に、小学生・中高生・乳幼児親子どの世代にも確実に良い影響を与えていると感じます。これは0～18歳までの児童とその保護者を対象としている“児童館”ならではの最大の長所だと思うので、今後も、この多世代交流の小さな芽を大切に、トラブルのないよう気をつけながら見守っていきたいと思います。

今年度の小学生向け行事は、昨年度に続き毎週火曜日に行っている『なかよし広場』の中に、『つくって遊ぼう』、『おりがみキッズ』といった工作行事、また防災に関する知識と意識を高めるために、『ミニ避難訓練』を定期的に混ぜ込み行ってきました。さらに、月に一回程度ドッジボール大会やオセロ大会、百人一首大会などの大型行事を開催しました。こうした大型行事には、度々地域の方々や中高生のボランティアのお手伝いを頂き、地域との交流の機会としても機能してきました。

地域の方々から要望を受け平成27年度から始まった『移動児童館』では、『味方ひまわりクラブ』に2回訪問し、さらに28年度からは味方小学校文化祭体験教室にて『カプラ』の講師として訪問し、移動児童館を行いました。今年の『カプラ』は、低学年と高学年に分かれ、それぞれが『ナイアガラ』と『マウント富士』をつくりました。複数人で

の大作づくりは非常に難しく、幾度もガラガラと崩れてしまいましたが、その度にまた挑戦していく子ども達の粘り強さを感じられたイベントでした。来年度の文化祭も小学校に伺う予定になっています。

また近年では、かねてから要望のあった、味方地域の各公民館を使った移動児童館も実施しています。児童館から家が遠く、送ってもらわないとなかなか遊びに来られない子のために、今年は七穂公民館の講堂で移動ドッジボール大会を行いました。七穂地区の多くの子ども達が参加してくれ、移動児童館の必要性を改めて実感しました。

初年度から【子どもたちと一緒につくる児童館】を目標として掲げ、意識的に児童館運営を行ってきました。11年目に突入した今年度、4月に『味方児童館10周年記念祭』を行いました。

“子ども達と一緒につくる10周年祭”をコンセプトに、様々な部分で子ども達と共に計画・準備をし、当日は日頃児童館に携わって頂いている地域の方々を来賓としてお招きしました。

2部構成に分け、第1部はセレモニーとして、地域の方々や子ども達からお祝いの言葉を頂いたり、10年間の思い出をスライドショーやビデオメッセージで振り返ったり、児童館10歳の手作り誕生日ケーキに子ども達からキャンドルサービスをしてもらったりと、盛りだくさんの内容を行いました。

第2部ではレクリエーションとして、子ども達と地域の方々皆で一緒になって児童館にまつわるクイズや数集まりゲームをしたり、最後に歌を歌ったりして一丸となって楽しみました。サプライズあり、涙ありの笑顔溢れる10周年記念祭が出来たと思います。なにより子ども達、地域の方々と一緒に10周年を祝うことができた喜びや、“たくさんの協力や支えによって味方児童館がつくられている”、ということを感じられた記念祭でした。またこれにより、子ども達にも改めて“自分達の児童館”として大切に考えてもらうことができたと思います。今後も子ども達の気持ちに寄り添いながら、一緒に楽しい児童館をつくりあげていきます。

## (2) 来期の課題

### ①原点に立ち返り、安心安全の遊び場を

乳幼児事業の方の課題でもあげましたが、来年度はとにかく子ども達が安心して遊びに来られる場の提供を優先的に考えていきます。イベントに力を入れるのではなく、まず感染症対策としての環境の整備を徹底していきます。またこの機に、子ども達が使う各スペースの安全管理や玩具の点検などにも留意し、この状況でもできる限り子ども達に安全に楽しく遊んでもらえるよう施設管理に努めます。

## 3. 中・高生事業

### (1) 総括

近年ますます中学校との連携のパイプが強まってきていると感じています。味方中学

校とは、児童館各行事のボランティアの募集を積極的に協力して頂いたり、中学生の情報交換のための会議の場に招いて頂いたり、密な連携をとっています。そのおかげか、「児童館は小学生がいくもの」というイメージが最近はずいぶん払拭されてきているように感じます。開館以来、徐々に中高生の来館数が伸びてきており、今ではイベント時のみならず、日常的に中高生が遊びに来てくれ、日々の生活の話や学校、バイト、友達関係の話などをスタッフに話して帰っていく姿が頻繁に見られます。

『クリスマス会』の吹奏楽部演奏会だけでなく、中学生の職場体験や、『なつ・ふゆまつり』のボランティアなど、中学生の児童館での活躍の場も、近年ではどんどん増えてきています。

今年度は7月に、前身である『味中剣道部と遊ぼう!』を踏襲した企画『味中バレー部と遊ぼう!』を行ってみました。内容としては、味方中学校のバレーボール部の子ども達が児童館に来てくれ、小学生の子ども達相手に練習メニューの紹介や、バレーボールの基本的動作を取り入れたレクリエーションで遊ぶといったものでした。

漫画『ハイキュー!!』の影響や、テレビでのバレーボール観戦でほんの少しはバレーボールを知っている小学生達でしたが、初めて実際に目の前で繰り広げられる本格的なバレーボールに目を丸くしていました。バレーボール部のメンバーの子ども達も、久々の児童館来館に嬉しそうにしてくれ、また未来のバレーボール部員発掘ということでやる気に溢れ、双方にとって良いイベントでした。内容がバレーボールだけに小学生達に体験させられることが限られ、計画に非常に苦労しましたが、中学生の部員達と一緒に考えることができ、とても有意義な機会でした。

『おまつり』では、中高生がボランティアスタッフとして協力してくれ、大活躍してくれました。

募った時に引き受けてくれるだけではなく、日常的に運営側のお手伝いをしてもらえることが自然になってきています。この形が、中高生の居場所をつくることにも繋がっていると感じています。今後はさらに中高生が児童館に関われるような企画を考えていきたいです。

日々小学生達の遊び相手をしてくれる中学生の姿を見て、これが児童館の在るべき理想の姿だなあと感じます。児童館を利用した子ども達が成長し、自分達がしてもらったように今度は大人として下の世代の子ども達を楽しませてあげようとする、こうした循環が双方に良い刺激と成長を与えたいと思います。この流れを大切に、今後も中学・高校と連携を深めながら運営を続けていきます。

## (2) 来期の課題

### ① 安全な“居場所”の維持

乳幼児事業、小学生事業同様、中高生事業も来期はまず来館者を増やすというよりも、遊びに来てくれた時に安心できる、安全である場という環境づくりを大切にします。子ども達にとって様々な“居場所”が失われていっている今、児童館が通常通りに運営できるよう新型コロナウィルスに対する環境整備・対応をしっかりと行っていきます。

### 3. 地域との連携事業

#### ①味方地区公民館との連携事業

- ・育児講座ベビーマッサージ（6月）
- ・人形劇（7月）
- ・食育講座おはよう朝ごはん（7月）
- ・陶芸教室（7、8月）
- ・新大アカペラサークルコンサート（11月）

#### ②味方小学校、おむすびクラブとの連携事業

- ・いきいき子ども塾「小学校に泊まろう」
- ・「自学おうえん隊」
- ・文化祭体験教室「カブラ」

#### ③味方中学校との連携事業

- ・職場体験（7月）
- ・クリスマス会吹奏楽部演奏会（12月）
- ・おまつり生徒ボランティア（8、2月）

#### ④ボランティアとの連携事業

- ・なつまつり
- ・夏休み工作
- ・新年お楽しみ会（百人一首大会）
- ・ちびっこクリスマス会
- ・ふゆまつり
- ・ちびっこ運動会
- ・ちびっこひなまつり会
- ・小学生クラブ（食生活改善推進委員など）
- ・ちびっこ広場での絵本の読み聞かせ
- ・工作材料、手作りおもちゃの提供、花植え、瓢箪栽培、館内の凧の展示ボランティアなど 多数